

第2章 食品製造業の生産動向

利用者のために

食品製造業 総合

- 1 畜産食料品
- 2 水産食料品
- 3 農産食料品
- 4 製穀粉・同加工品
- 5 食用油・同加工品
- 6 砂糖
- 7 調味料
- 8 飲料
- 9 菓子
- 10 調理食品
- 11 酒類

利用者のために

1 食品製造業の生産、出荷、在庫調査の対象

(1) 調査の対象

食品製造業の生産、出荷、在庫調査は、標本調査及び既存統計資料の収集から構成されている。標本調査は、食品需給研究センターがアンケート等の調査により実施したものである。既存統計資料は、農林水産省や関係団体等で実施された調査統計資料を収集し、活用したものである。

調査対象部門と品目は下表のとおりである。

	本調査の対象品目 (標本調査)	既存統計資料の収集品目 (農林水産省、業界団体、国税庁等)
1 畜産食料品	はっ酵乳・乳酸菌飲料	食肉加工品、牛乳・乳製品、食肉缶・びん詰
2 水産食料品	水産練製品	水産缶・びん詰
3 農産食料品	野菜・果実漬物 乾燥野菜	農産缶・びん詰、トマト加工品
4 製穀粉・同加工品	製粉・穀粉、パン類、めん類、マカロニ類	プレミックス、パン粉、でん粉
5 食用油・同加工品		植物油脂・加工油脂
6 砂糖		精製糖
7 調味料	味噌	しょうゆ、マヨネーズ、ドレッシング類
8 飲料	コーヒー、紅茶、緑茶、ウーロン茶、麦茶、その他の茶系飲料	炭酸飲料、果実飲料、トマト飲料
9 菓子	ビスケット、米菓	
10 調理食品	加工米飯、包装もち	調理缶・びん詰、レトルト食品
11 酒類		清酒、合成清酒、みりん、焼酎、ビール 果実酒、リキュール、雑酒
12 その他の食品		植物油粕

(2) 標本調査の概要

調査対象	調査対象企業数 602 社
調査時期	平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月
調査方法	郵送・FAX・メール・電話による聞き取り
回答企業数	285 社（回答率約 47.3 %）

2 食品製造業の生産指数、出荷指数、在庫指数の作成基準

(1) 食品製造業生産指数

食品製造業生産指数のウェイトについては、平成 22 年工業統計表の食料品製造業の出荷額を基準として作成している。

ウェイトは、各部門別、業種別、品目別のウェイトを算出するが、調査資料のない品目のウェイトは、原則として、調査品目にふくらしを行い、部門及び全体の推計を行う（ふくらしウェイト方式）。

指数算出時点においてデータがすべて揃わない場合は、前年と同水準であるとする仮定のもと、該当する欠損値に前年の数値を用いて指数を算出している。

(2) 食品製造業出荷指数

食品製造業出荷指数のウェイトについては、平成 22 年工業統計表の採用品目及び出荷額を基準に作成している。

(3) 食品製造業在庫指数

食品製造業在庫指数のウェイトについては、平成 22 年工業統計表の採用品目及び出荷額を基準に作成している。

3 指数の計算方法

指数の計算方法は、次のとおり。

(1) 指数算式

指数計算は対象品目別に基準数量で比較月の生産量を除し、品目指数を計算し、次にこれらの品目指数を業種別、部門別、さらに総合につき品目ウェイトで加重平均する。

基準数量と品目ウェイトはあらかじめ算定し、固定しておくので、変化するのは月々の生産量のみである（ラスパイレス算式）。この指数算式は次のごとくである。

$$Q_t = \frac{\sum_{i=1}^n \frac{q_{ti}}{q_{0i}} w_{0i}}{\sum_{i=1}^n w_{0i}} \times 100.0$$

q : 生産量
 w : 生産額ウェイト
 i : 採用品目を示す添字
 0 : 基準時を示す添字
 t : 比較時を示す添字

生産指数の基準年は平成 22 年であり、基準数量は対象品目ごとの 22 年月平均生産数量である。指数値は 22 年月平均の比例数である。出荷指数と在庫指数についても同様の指数算式で行う。

（２） 指数改定

指数は、基準時から遠ざかるに従い新製品の登場、製品の品質変化、相対価格の変化等によって採用品目の代表性、ウェイト構成の妥当性が不安定になる。このため 5 年毎に基準時を移行し、改めて選定された採用品目と再計算されたウェイトによる改定基準を作成する必要がある。

（３） 用語の解説

① 暫定値：各総合指数を推計する際、現在の使用データが速報値であり、今後確定値に変更されるデータについては、暫定値としている。

② 寄与度：他の内訳が変化しないとした場合に特定の内訳の変化が全体をどの程度の割合で変化させたかを表している。

$$\text{対前年増減寄与度} = \frac{\text{各部門指数（当年指数－前年指数）} \times \text{ウェイト}}{\text{（総合指数（前年指数）} \times \text{ウェイト）} \times 100.0}$$

③本報告書では上昇、低下、増加、減少の表現区分は次のようにしている。

前年並み	：	± 1 %未満
わずかに	：	± 1 ～ 3 %未満
やや	：	± 3 ～ 6 %未満
かなりの程度	：	± 6 ～ 11 %未満
かなり大きく	：	± 11 ～ 16 %未満
大幅に	：	± 16 %以上

食品製造業 総合

(1) 生産指数

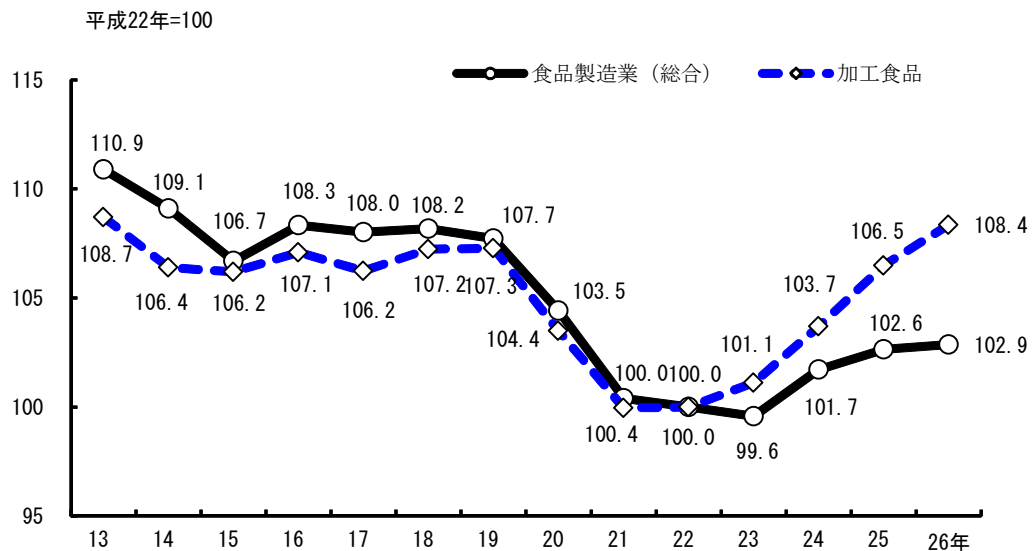
平成26年の食品製造業（総合）の生産指数は102.9で、対前年比0.2%と前年並み

平成26年の食品製造業（総合）の生産指数（平成22年=100、暫定値）は102.9で、対前年比0.2%と前年並みとなった。うち、飲料、酒類を除いた加工食品の生産指数（平成22年=100、暫定値）は108.4で、対前年比1.8%とわずかに上昇した。

食品製造業（総合）の生産指数は、平成20年の世界的な経済不況、平成23年の東日本大震災後、上昇で推移し、回復している。平成26年は調理食品、水産食料品、製穀粉・同加工品、食用油・同加工品、菓子が対前年比でプラスに寄与している。一方、酒類、畜産食料品、農産食料品、飲料は対前年比でマイナスに寄与している。

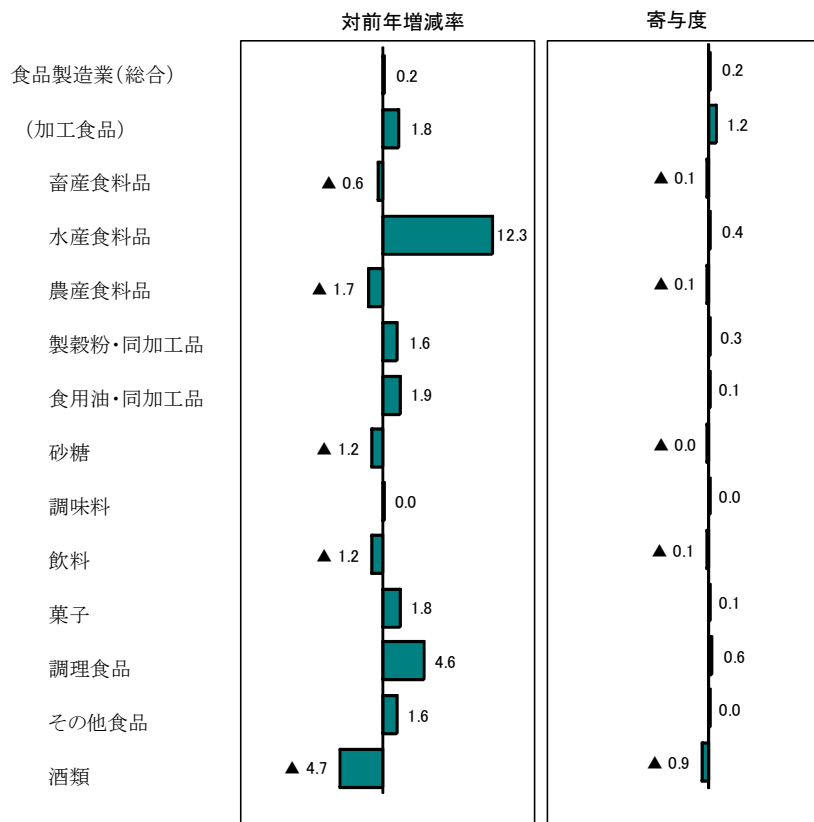
分野別にみると、水産食料品が対前年比でかなり大きく上昇し、調理食品がやや上昇し、製穀粉・同加工品、食用油・同加工品、菓子及びその他食品がわずかに上昇した。一方、酒類が対前年比でやや低下し、農産食料品、砂糖及び飲料がわずかに低下した。また、畜産食料品及び調味料は前年並みとなった。

図2-1 食品製造業生産指数の推移



注：加工食品は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

図2-2 食品製造業の生産指数の対前年増減率、寄与度



注：(加工食品)は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

表 2-1 食品製造業の生産指数の推移

	ウェイト (22年)	指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 26/25年
		22年	24年	25年	26年	22年	24年	25年	26年	
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	101.7	102.6	102.9	▲ 0.4	2.1	0.9	0.2	0.2
(加工食品)	6,755.5	100.0	103.7	106.5	108.4	0.0	2.6	2.7	1.8	1.2
畜産食料品	1,581.5	100.0	103.0	103.6	102.9	▲ 0.5	28.0	0.6	▲ 0.6	▲ 0.1
水産食料品	321.0	100.0	97.3	94.7	106.3	3.4	5.7	▲ 2.7	12.3	0.4
農産食料品	451.3	100.0	87.0	86.0	84.5	▲ 1.4	▲ 3.2	▲ 1.2	▲ 1.7	▲ 0.1
製穀粉・同加工品	1,577.6	100.0	101.6	103.8	105.5	0.9	▲ 1.9	2.2	1.6	0.3
食用油・同加工品	360.2	100.0	104.3	111.1	113.3	▲ 4.0	7.0	6.6	1.9	0.1
砂糖	19.5	100.0	97.8	97.9	96.6	1.5	▲ 1.1	0.1	▲ 1.2	▲ 0.0
調味料	865.0	100.0	102.1	102.9	103.0	▲ 1.3	2.7	0.8	0.0	0.0
飲料	1,214.6	100.0	98.5	97.2	96.0	▲ 3.7	4.3	▲ 1.4	▲ 1.2	▲ 0.1
菓子	490.4	100.0	99.8	97.5	99.3	0.7	▲ 1.3	▲ 2.3	1.8	0.1
調理食品	984.0	100.0	122.2	136.1	142.3	1.3	12.2	11.4	4.6	0.6
その他食品	105.0	100.0	94.4	94.3	95.8	2.0	▲ 2.6	▲ 0.1	1.6	0.0
酒類	2,029.9	100.0	97.0	93.1	88.7	0.1	▲ 0.5	▲ 4.0	▲ 4.7	▲ 0.9

注：(加工食品)は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

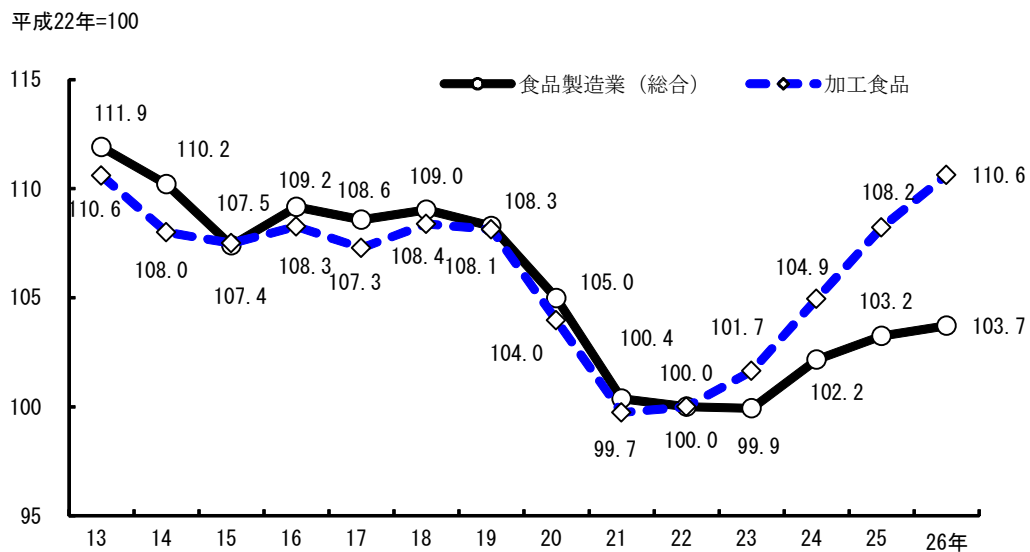
(2) 出荷指数

平成26年の食品製造業（総合）の出荷指数は103.7で、対前年比0.5%と前年並み

平成26年の食品製造業（総合）の出荷指数（平成22年=100）は103.7で、対前年比0.5%と前年並みとなった。うち、加工食品の出荷指数（平成22年=100）は110.6で、対前年比2.2%とわずかに上昇した。食品製造業（総合）の生産指数は水産食料品、製穀粉・同加工品、食用油・同加工品、調味料、菓子、調理食品が対前年比でプラスに寄与し、一方、畜産食料品、酒類が対前年比でマイナスに寄与している。

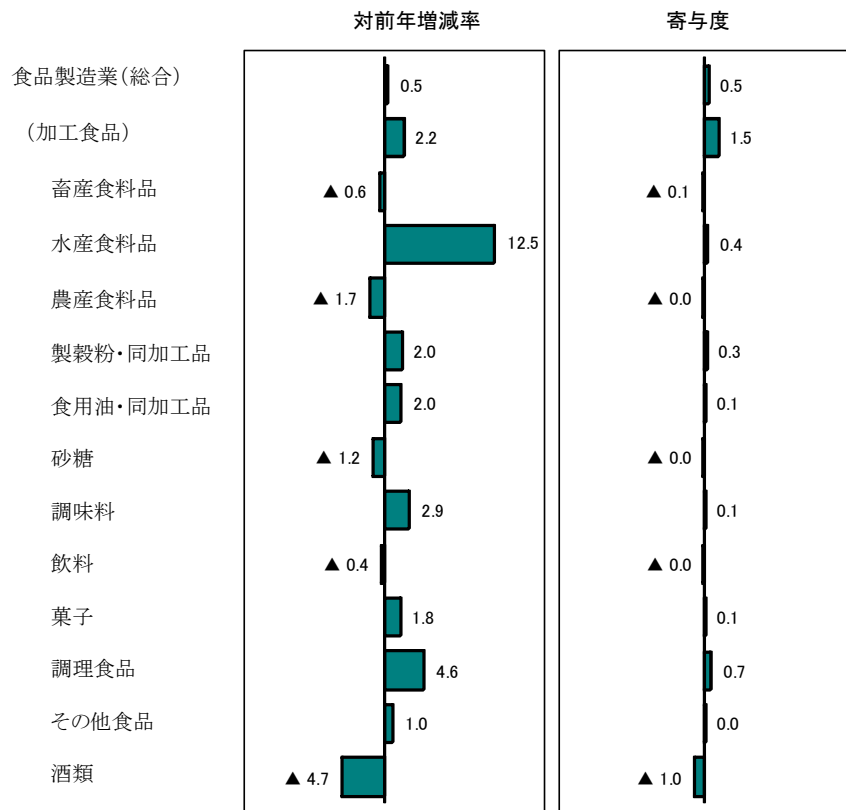
分野別にみると、水産食料品が対前年比でかなり大きく上昇し、調理食品がやや上昇し、製穀粉・同加工品、食用油・同加工品、調味料、菓子及びその他食品がわずかに上昇した。一方、酒類が対前年比でやや低下し、農産食料品及び砂糖がわずかに低下した。また、畜産食料品及び飲料は前年並みとなった。

図2-3 食品製造業出荷指数の推移



注：加工食品は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

図2-4 食品製造業の出荷指数の対前年増減率、寄与度



注：(加工食品) は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

表 2-2 食品製造業の出荷指数の推移

	ウェイト (22年)	指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 26/25年
		22年	24年	25年	26年	22年	24年	25年	26年	
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	102.2	103.2	103.7	▲ 0.4	2.2	1.1	0.5	0.5
(加工食品)	6,390.0	100.0	104.9	108.2	110.6	0.3	3.2	3.1	2.2	1.5
畜産食料品	1,787.7	100.0	105.6	107.3	106.7	▲ 0.2	2.8	1.6	▲ 0.6	▲ 0.1
水産食料品	362.8	100.0	97.4	94.7	106.5	3.4	5.9	▲ 2.8	12.5	0.4
農産食料品	334.2	100.0	87.0	86.0	84.5	▲ 1.4	▲ 3.2	▲ 1.2	▲ 1.7	▲ 0.0
製穀粉・同加工品	1,423.3	100.0	101.5	103.5	105.6	1.0	▲ 0.9	2.0	2.0	0.3
食用油・同加工品	407.1	100.0	104.3	111.1	113.3	▲ 4.4	7.3	6.5	2.0	0.1
砂糖	22.1	100.0	97.8	97.9	96.6	1.5	▲ 1.1	0.1	▲ 1.2	▲ 0.0
調味料	267.6	100.0	96.5	94.6	97.3	▲ 0.7	▲ 2.2	▲ 2.0	2.9	0.1
飲料	1,315.6	100.0	97.6	96.7	96.4	▲ 4.1	1.9	▲ 0.9	▲ 0.4	▲ 0.0
菓子	554.3	100.0	99.8	97.5	99.3	0.7	▲ 1.3	▲ 2.3	1.8	0.1
調理食品	1,112.3	100.0	122.2	136.1	142.3	1.3	12.2	11.4	4.6	0.7
その他食品	118.6	100.0	95.2	94.6	95.5	1.4	▲ 1.8	▲ 0.6	1.0	0.0
酒類	2,294.4	100.0	97.0	93.1	88.7	0.1	▲ 0.5	▲ 4.0	▲ 4.7	▲ 1.0

注：(加工食品) は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

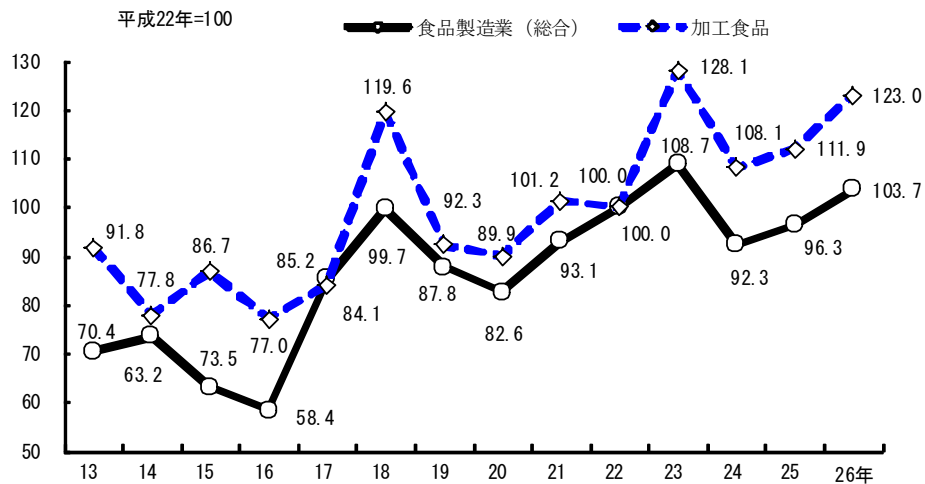
(3) 在庫指数

平成26年の食品製造業（総合）の在庫指数は103.7で、対前年比7.8%とかなりの程度上昇

平成26年の食品製造業（総合）の在庫指数（平成22年=100）は103.7で、対前年比7.8%とかなりの程度上昇した。うち、加工食品の在庫指数（平成22年=100）も123.0で、対前年比9.8%とかなりの程度上昇した。

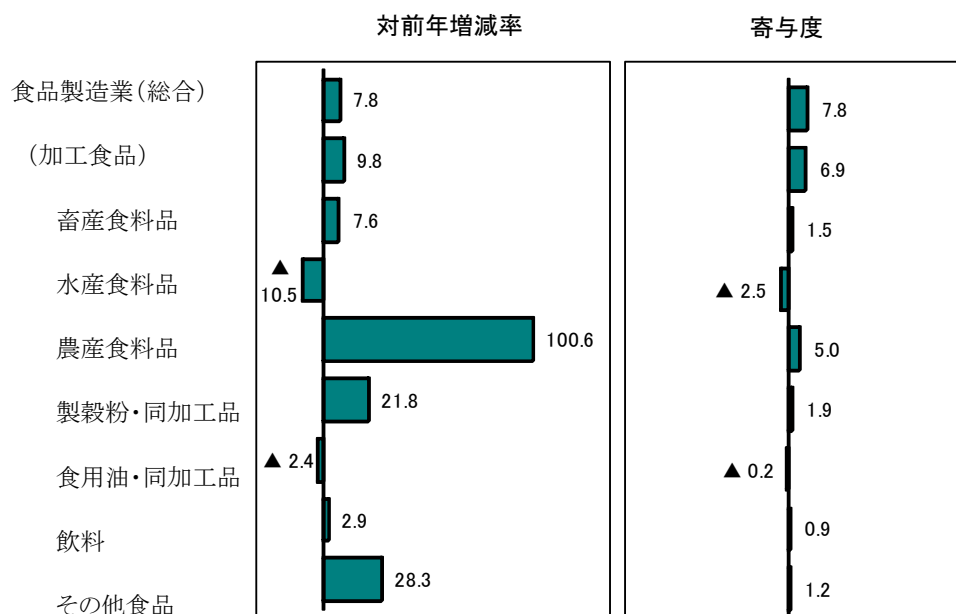
分野別にみると、農産食料品、製穀粉・同加工品及びその他食品が対前年比で大幅に上昇し、畜産食料品がかなりの程度上昇し、飲料がわずかに上昇した。一方、水産食料品が対前年比でかなりの程度低下し、食用油・同加工品がわずかに低下した。

図2-5 食品製造業在庫指数の推移



注：加工食品は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

図2-6 食品製造業の在庫指数の対前年増減率、寄与度



注：(加工食品)は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

表 2-3 食品製造業の在庫指数の推移

	ウェイト (22年)	指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 26/25年
		22年	24年	25年	26年	22年	24年	25年	26年	
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	92.3	96.3	103.7	7.4	▲ 15.1	4.3	7.8	7.8
(加工食品)	6,034.3	100.0	108.1	111.9	123.0	▲ 1.2	▲ 15.6	3.5	9.8	6.9
畜産食料品	1,455.0	100.0	106.3	130.8	140.7	▲ 14.1	▲ 39.4	23.0	7.6	1.5
水産食料品	1,605.0	100.0	125.5	145.4	130.1	15.3	0.8	15.8	▲ 10.5	▲ 2.5
農産食料品	1,001.5	100.0	106.0	47.6	95.5	15.6	▲ 2.5	▲ 55.1	100.6	5.0
製穀粉・同加工品	794.7	100.0	89.3	107.2	130.6	▲ 21.8	▲ 6.3	20.0	21.8	1.9
食用油・同加工品	716.1	100.0	107.3	107.0	104.4	▲ 2.4	▲ 4.1	▲ 0.2	▲ 2.4	▲ 0.2
飲料	3,965.7	100.0	68.3	72.4	74.5	23.8	▲ 13.8	6.1	2.9	0.9
その他食品	462.2	100.0	91.7	91.4	117.3	13.8	▲ 20.1	▲ 0.3	28.3	1.2

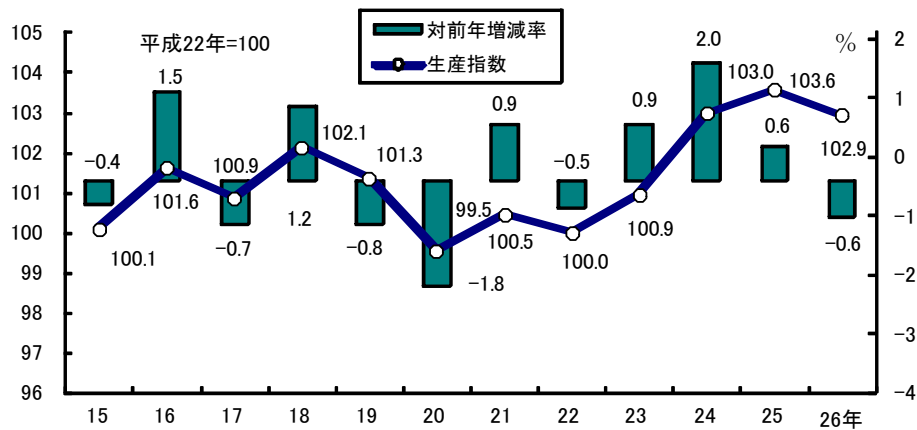
注：(加工食品)は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

1 畜産食料品

平成 26 年の畜産食料品の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 102.9 で、対前年比▲ 0.6 %と前年並みとなった。平成 22 年以降上昇傾向で推移していたが、平成 26 年は前年並みで横ばいとなっている。特に食肉加工品が対前年比でプラスに寄与したものの、乳製品がマイナスに寄与している。

品目別にみると、食肉缶・びん詰が対前年比で大幅に上昇し、食肉加工品はわずかに上昇した。一方、乳製品が対前年比でやや低下し、飲用牛乳及び乳飲料がわずかに低下した。また、はっ酵乳・乳酸菌飲料及びアイスクリームは前年並みとなった。

図2-7 畜産食料品の生産指数の推移



食肉加工品はわずかに上昇、特にハム類はわずかに低下、ベーコン類は前年並み、ソーセージ類はわずかに上昇

食肉加工品の生産量は 54 万トンで、生産指数は対前年比 1.0 %とわずかに上昇した。内訳についてみると、ハム類の生産量は 10 万 6 千トンで、生産指数は対前年比▲ 1.1 %とわずかに低下、ベーコン類については生産量が 8 万 7 千トンで、生産指数は対前年比 0.0 %と前年並み、ソーセージ類については生産量が 31 万 3 千トンで、生産指数は対前年比 2.0 %でわずかに上昇した。

飲用牛乳及び乳飲料はわずかに低下、はっ酵乳・乳酸菌飲料は前年並み

飲用牛乳の生産量は 298 万 9 千 kl で、生産指数は対前年比▲ 1.4 %とわずかに低下した。また、乳飲料も 133 万 kl で、生産指数は対前年比▲ 2.7 %でわずかに低下した。一方、はっ酵乳・乳酸菌飲料は 170 万 3 千 kl で、生産指数は対前年比 0.3 %と前年並みとなった。

乳製品はやや低下、特に脱脂粉乳及びバターがかなり大きく低下

乳製品の生産指数は 97.6 で対前年比▲ 3.2 %とやや低下した。生乳生産が減少し、乳製品の需給がひっ迫したためである。内訳についてみると、脱脂粉の生産量は 12 万トンで、生産指数は対前年比▲ 12.1 %とかなり大きく低下した。また、バターについても 6 万 1 千

トンで、生産指数は対前年比▲ 11.0 %とかなり大きく低下した。

図2-8 畜産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

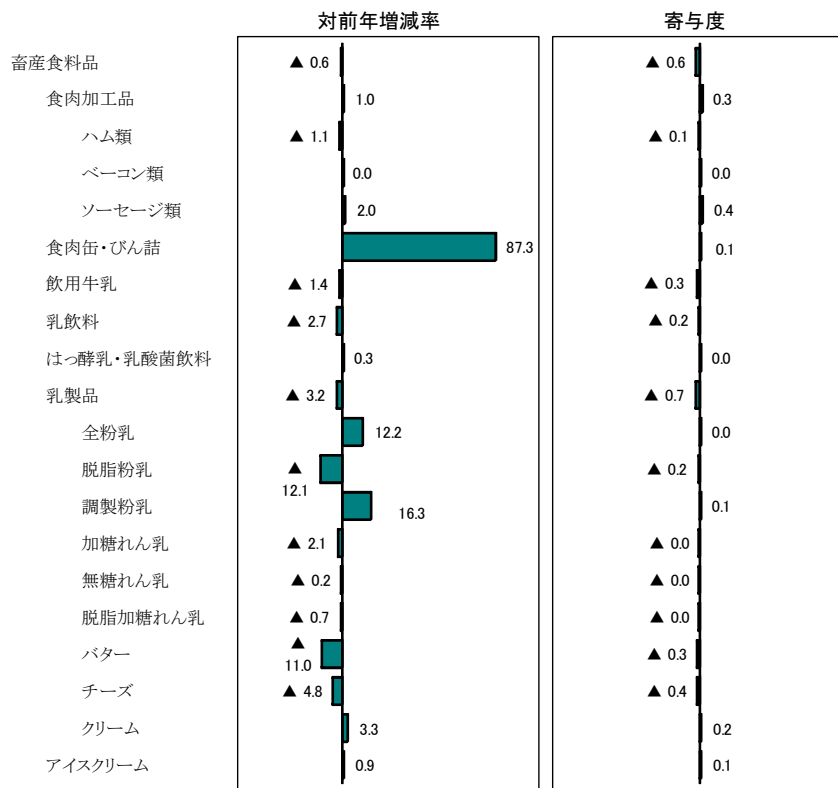


表 2-4 畜産食料品の品目別生産指数の推移

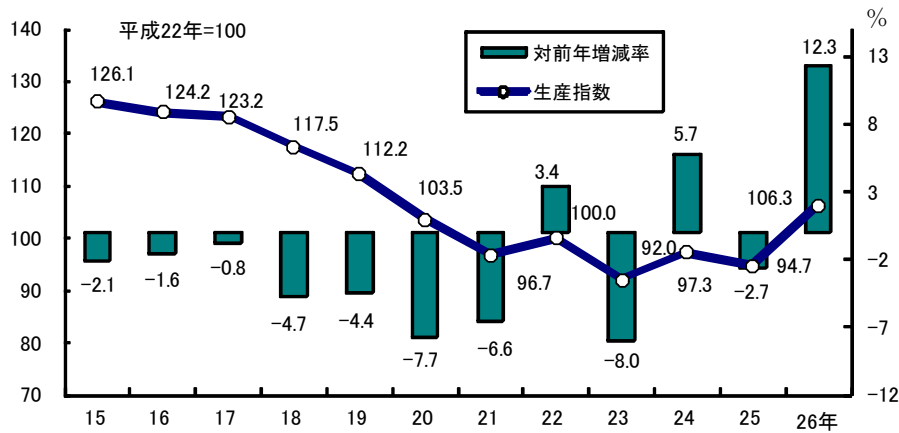
年次 品目	ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 26/25年
		22年	24年	25年	26年	22年	24年	25年	26年	
畜産食料品	1,581.5	100.0	103.0	103.6	102.9	▲ 0.5	2.0	0.6	▲ 0.6	▲ 0.6
食肉加工品	457.8	100.0	104.0	105.0	106.0	▲ 0.9	2.0	1.0	1.0	0.3
ハム類	99.1	100.0	104.6	103.9	102.7	▲ 2.2	2.0	▲ 0.7	▲ 1.1	▲ 0.1
ベーコン類	77.7	100.0	106.8	107.3	107.3	▲ 0.5	2.6	0.5	0.0	0.0
ソーセージ類	280.9	100.0	103.0	104.7	106.9	▲ 0.5	1.8	1.7	2.0	0.4
食肉缶・びん詰	1.5	100.0	95.6	111.0	207.9	▲ 0.7	29.4	16.1	87.3	0.1
飲用牛乳	370.8	100.0	95.7	93.6	92.2	▲ 1.5	▲ 1.8	▲ 2.2	▲ 1.4	▲ 0.3
乳飲料	103.5	100.0	109.6	112.8	109.8	2.1	4.1	2.9	▲ 2.7	▲ 0.2
はっ酵乳・乳酸菌飲料	122.7	100.0	114.4	118.2	118.6	1.3	12.1	3.3	0.3	0.0
乳製品	334.2	100.0	102.0	100.8	97.6	▲ 1.3	2.5	▲ 1.2	▲ 3.2	▲ 0.7
全粉乳	3.0	100.0	94.0	81.2	91.1	5.5	▲ 12.9	▲ 13.5	12.2	0.0
脱脂粉乳	35.3	100.0	89.1	87.6	77.0	▲ 7.0	1.1	▲ 1.6	▲ 12.1	▲ 0.2
調製粉乳	7.5	100.0	72.6	69.6	80.9	▲ 5.6	▲ 13.2	▲ 4.2	16.3	0.1
加糖れん乳	8.2	100.0	104.1	95.1	93.2	▲ 7.5	3.7	▲ 8.6	▲ 2.1	▲ 0.0
無糖れん乳	0.2	100.0	75.6	71.0	70.9	1.3	▲ 11.9	▲ 6.1	▲ 0.2	▲ 0.0
脱脂加糖れん乳	1.0	100.0	108.3	89.2	88.6	▲ 15.9	1.0	▲ 17.7	▲ 0.7	▲ 0.0
バター	53.2	100.0	93.7	92.8	82.5	▲ 8.8	9.8	▲ 1.0	▲ 11.0	▲ 0.3
チーズ	119.5	100.0	108.1	106.6	101.4	2.3	2.8	▲ 1.4	▲ 4.8	▲ 0.4
クリーム	106.3	100.0	105.6	106.0	109.5	1.9	0.8	0.4	3.3	0.2
アイスクリーム	191.1	100.0	105.5	109.8	110.9	1.5	0.5	4.1	0.9	0.1

2 水産食料品

平成26年の水産食料品の生産指数（平成22年=100、暫定値）は106.3で、対前年比12.3%とかなり大きく上昇した。なかでもちくわ・かまぼこ類の上昇が大きく寄与している。

品目別にみると、水産練製品（ちくわ・かまぼこ類）がかなり大きく上昇した。また、水産缶・びん詰もかなりの程度上昇した。

図2-9 水産食料品の生産指数の推移



ちくわ・かまぼこ類はかなり大きく上昇、水産缶・びん詰はかなりの程度上昇

ちくわ・かまぼこ類の生産量は52万8千トンで、生産指数は対前年比12.9%とかなり大きく上昇した。これは、スーパー及びコンビニエンスストアでのおでん用商材としての需要拡大等が寄与しているとみられる。また、水産缶・びん詰の生産量は9万3千トンで、生産指数は対前年比9.3%とかなりの程度上昇した。

図2-10 水産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

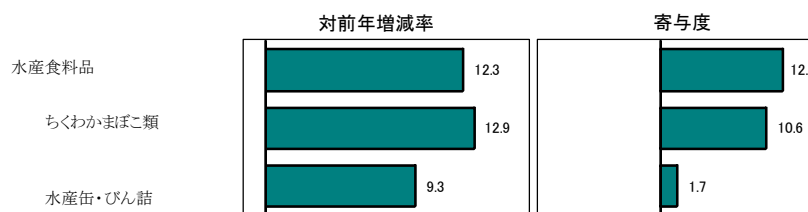


表 2-5 水産食料品の品目別生産指数の推移

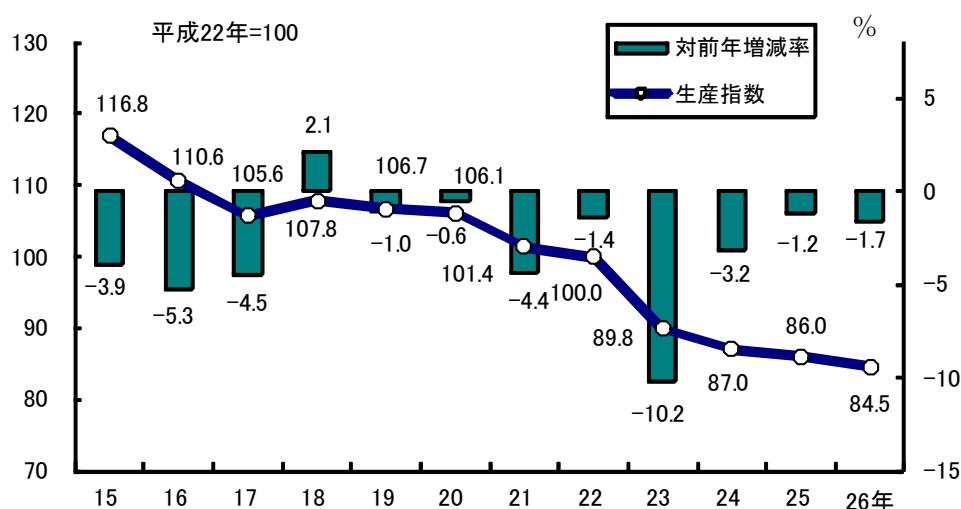
年次 品目	ウェイト (22年)	指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 26/25年
		22年	24年	25年	26年	22年	24年	25年	26年	
水産食料品	321.0	100.0	97.3	94.7	106.3	3.4	5.7	▲ 2.7	12.3	12.3
ちくわかまぼこ類	249.5	100.0	101.2	99.7	112.6	6.6	2.3	▲ 1.5	12.9	10.6
水産缶・びん詰	71.5	100.0	83.7	77.3	84.5	▲ 6.4	23.3	▲ 7.7	9.3	1.7

3 農産食料品

平成 26 年の農産食料品の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 84.5 で、対前年比▲ 1.7 %とわずかに低下した。平成 15 年以降低下傾向に歯止めがかからず、特に漬物及びトマト加工品の低下が全体を押し下げている。

品目別にみると、漬物、乾燥野菜及びトマト加工品はわずかに低下した。一方、農産缶・びん詰は前年並みとなった。

図2-11 農産食料品の生産指数の推移



漬物はわずかに低下

漬物の生産量は 70 万 5 千トンで、生産指数は対前年比▲ 1.9 %とわずかに低下した。内訳についてみると、塩漬類の生産量は 10 万トンで、生産指数は対前年比 1.3 %とわずかに上昇、酢漬類の生産量は 7 万 1 千トンで、生産指数は対前年比▲ 0.5 %と前年並みとなった。また、浅漬の生産量は 11 万 8 千トンで、生産指数は対前年比 8.2 %とかなりの程度上昇した。一方、醤油漬は 32 万 5 千トンで、生産指数は対前年比▲ 4.7 %とやや低下した。

農産缶・びん詰は前年並み

農産缶・びん詰の生産量は 12 万 8 千トンで、生産指数は対前年比▲ 0.9 %と前年並みとなった。内訳についてみると、野菜缶が 2 万 4 千トンで、生産指数は対前年比▲ 11.3 %とかなり大きく低下した。近年加工野菜の消費については多様化しており、レトルトや冷凍、カットでの消費、また紙パックでの野菜ジュースの浸透等も野菜缶の減少に影響しているとみられる。またジャムびんの生産量は 2 万 1 千トンで、生産指数は対前年比▲ 5.6 %とやや低下した。一方、果実缶は 8 万 4 千トンで、生産指数は対前年比 5.9 %とやや上昇した。

トマト加工品はわずかに低下

トマト加工品の生産量は 10 万 1 千トンで、生産指数は対前年比▲ 1.5 %とわずかに低下

した。トマトピューレは前年を上回ったが、トマトケチャップ及びその他トマトが前年を下回り、全体ではわずかな減少となった。

図2-12 農産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

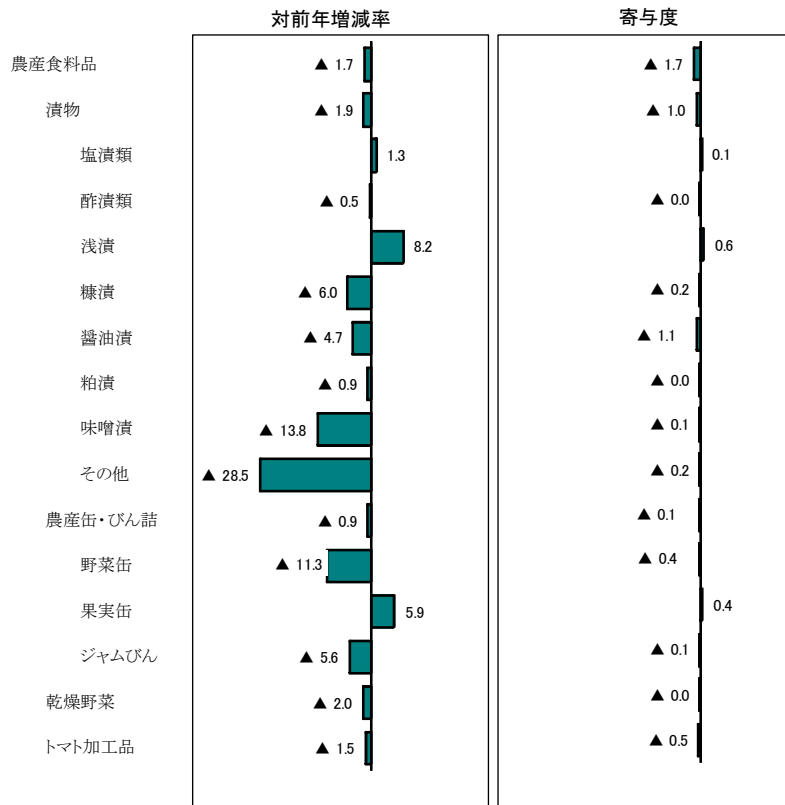


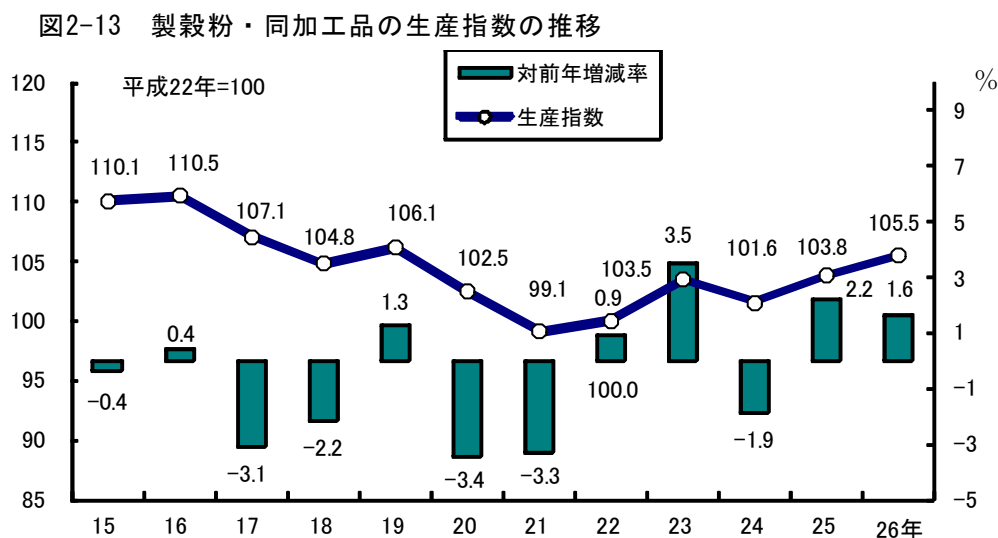
表 2-6 農産食料品の品目別生産指数の推移

品 目	年 次 ウエイト (22年)	指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度
		22年	24年	25年	26年	22年	24年	25年	26年	
農産食料品	451.3	100.0	87.0	86.0	84.5	▲ 1.4	▲ 3.2	▲ 1.2	▲ 1.7	▲ 1.7
漬物	234.3	100.0	82.4	82.4	80.8	▲ 4.1	▲ 7.0	0.0	▲ 1.9	▲ 1.0
塩漬類	36.0	100.0	73.1	73.8	74.8	1.6	▲ 11.9	1.0	1.3	0.1
酢漬類	26.5	100.0	78.6	71.8	71.5	▲ 0.4	▲ 23.6	▲ 8.6	▲ 0.5	▲ 0.0
浅漬	41.7	100.0	65.7	70.5	76.3	▲ 0.3	▲ 12.4	7.3	8.2	0.6
糠漬	20.0	100.0	70.1	72.0	67.6	▲ 10.0	0.2	2.6	▲ 6.0	▲ 0.2
醤油漬	96.2	100.0	95.3	95.2	90.8	▲ 8.1	▲ 0.6	▲ 0.1	▲ 4.7	▲ 1.1
粕漬	9.2	100.0	79.8	73.8	73.1	6.4	▲ 4.2	▲ 7.6	▲ 0.9	▲ 0.0
味噌漬	2.0	100.0	98.4	91.9	79.2	▲ 1.7	▲ 3.7	▲ 6.6	▲ 13.8	▲ 0.1
その他	2.7	100.0	125.6	124.4	88.9	▲ 5.5	11.9	▲ 0.9	▲ 28.5	▲ 0.2
農産缶・びん詰	61.3	100.0	82.4	76.4	75.7	3.7	8.6	▲ 7.3	▲ 0.9	▲ 0.1
野菜缶	28.2	100.0	69.9	50.8	45.0	▲ 2.4	▲ 9.0	▲ 27.3	▲ 11.3	▲ 0.4
果実缶	22.8	100.0	99.4	114.8	121.6	15.9	27.8	15.5	5.9	0.4
ジャムびん	10.3	100.0	79.3	61.6	58.2	▲ 2.5	14.4	▲ 22.3	▲ 5.6	▲ 0.1
乾燥野菜	14.2	100.0	64.9	52.6	51.6	▲ 3.6	▲ 22.9	▲ 18.9	▲ 2.0	▲ 0.0
トマト加工品	141.5	100.0	98.7	99.4	97.9	1.4	0.2	0.6	▲ 1.5	▲ 0.5

4 製穀粉・同加工品

平成 26 年の製穀粉・同加工品の生産指数（平成 22 年=100）は 105.5 で、対前年比 1.6 %とわずかに上昇した。平成 15 年以降低下傾向で推移していたが、平成 21 年の谷底以降、上昇傾向に転じており、平成 26 年は対前年比で特にめん類の上昇が寄与している。

品目別にみると、めん類がやや上昇し、パン粉はわずかに上昇した。また、製穀粉及びパン類は前年並みとなった。



製穀粉は前年並み

製穀粉の生産量は 45 万 5 千トンで、生産指数は対前年比 ▲ 0.9 %と前年並みとなった。プレミックスが 1.4 %とわずかに増加したものの、米穀粉が ▲ 2.0 %とわずかに低下した。

めん類はやや上昇、即席めんはかなりの程度上昇

めん類の生産量は 141 万トンで、生産指数は対前年比 3.7 %とやや上昇した。内訳についてみると、生めん類の生産量は 57 万 8 千トンで、生産指数は対前年比 2.7 %とわずかに上昇した。また、乾めん類は 21 万 3 千トンで、生産指数は対前年比 0.1 %と前年並みとなった。即席めんは 41 万トンで、生産指数は対前年比 6.4 %とかなりの程度上昇した。これは、近年、即席袋麺ではより生めんに近いノンフライ麺商品が消費者の支持を拡大したことに加え、備蓄意識の高まりも要因とみられる。また、マカロニ・スパゲティは 16 万 4 千トンで、生産指数は対前年比 3.6 %とやや上昇した。

パン類は前年並み

パン類の生産量は 123 万 4 千トンで、生産指数は対前年比 0.5 %と前年並みとなった。内訳についてみると、食パンの生産量は 60 万 8 千トンで、生産指数は対前年比 1.7 %とわずかに上昇、一方、学校給食パンは 2 万 6 千トンで、生産指数は対前年比 ▲ 1.9 %とわずかに低下した。また、菓子パンは 38 万 7 千トンで、生産指数は対前年比 0.8 %と前年並み

となった。その他パンは 21 万 4 千トンで、生産指数は対前年比▲ 2.1 %とわずかに低下した。

図2-14 製穀粉・同加工品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

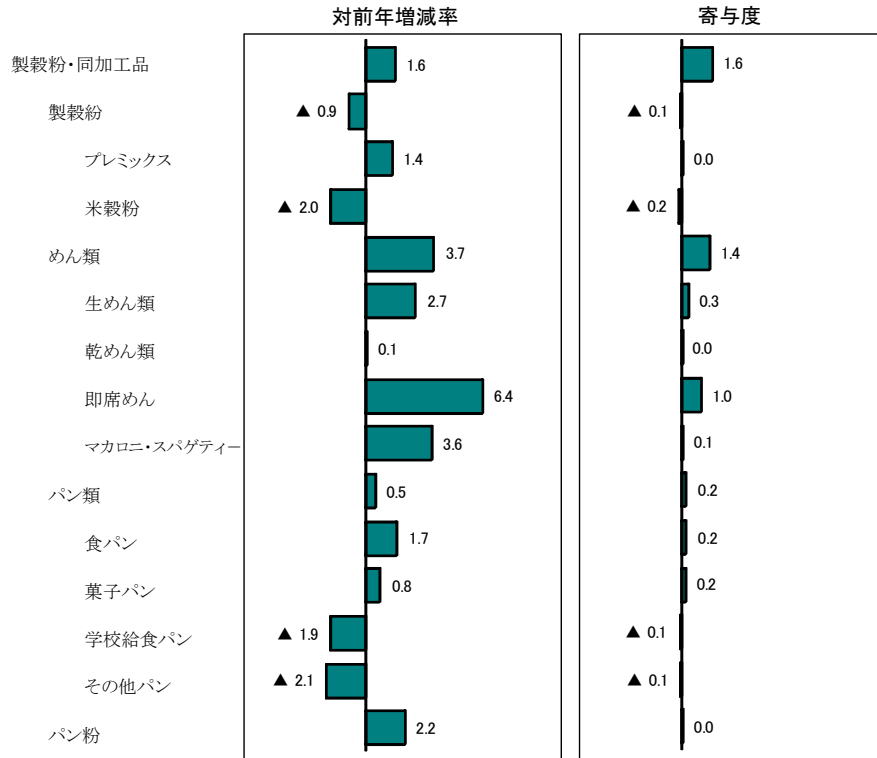


表 2-7 製穀粉・同加工品の品目別生産指数の推移

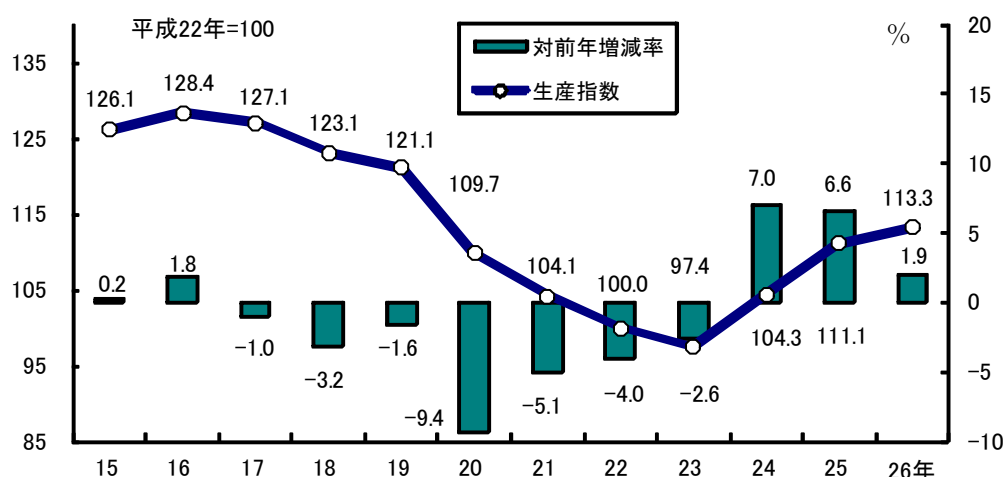
品 目	年 次 ウエイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 26/25年
		22年	24年	25年	26年	22年	24年	25年	26年	
製穀粉・同加工品	1,577.6	100.0	101.6	103.8	105.5	0.9	▲ 1.9	2.2	1.6	1.6
製穀粉	172.5	100.0	102.4	106.4	105.4	1.1	▲ 9.3	3.8	▲ 0.9	▲ 0.1
プレミックス	58.6	100.0	96.6	95.0	96.4	3.5	▲ 2.2	▲ 1.6	1.4	0.0
米穀粉	113.9	100.0	105.4	112.2	110.0	▲ 0.1	▲ 12.3	6.4	▲ 2.0	▲ 0.2
めん類	587.0	100.0	102.8	107.7	111.7	▲ 1.5	▲ 0.8	4.8	3.7	1.4
生めん類	206.6	100.0	97.7	101.4	104.1	▲ 2.6	▲ 1.2	3.8	2.7	0.3
乾めん類	123.5	100.0	100.7	105.2	105.2	4.8	▲ 2.4	4.4	0.1	0.0
即席めん	221.8	100.0	109.3	116.0	123.4	▲ 3.9	0.6	6.1	6.4	1.0
マカロニ・スパゲティ	35.1	100.0	98.4	101.2	104.8	0.1	▲ 3.1	2.9	3.6	0.1
パン類	787.4	100.0	100.6	100.5	101.0	2.7	▲ 0.9	▲ 0.2	0.5	0.2
食パン	224.3	100.0	100.8	103.8	105.6	0.6	0.1	3.1	1.7	0.2
菓子パン	389.5	100.0	104.4	102.1	103.0	5.1	0.1	▲ 2.2	0.8	0.2
学校給食パン	115.2	100.0	86.6	87.8	86.1	1.5	▲ 8.6	1.4	▲ 1.9	▲ 0.1
その他パン	58.4	100.0	102.8	101.5	99.4	▲ 2.0	2.7	▲ 1.2	▲ 2.1	▲ 0.1
パン粉	30.7	100.0	98.2	99.9	102.0	1.5	0.6	1.7	2.2	0.0

5 食用油・同加工品

平成 26 年の食用油・同加工品の生産指数（平成 22 年=100）は 113.3 で、対前年比 1.9 %とわずかに上昇した。平成 23 年までは低下傾向で推移したが、その後は前年を上昇傾向で推移しており、平成 26 年は対前年比で、特に加工油脂の上昇が寄与している。

品目別にみると、植物油脂及び加工油脂はともに対前年比でわずかに上昇した。

図2-15 食用油・同加工品の生産指数の推移



植物油脂及び加工油脂はともにわずかに上昇

植物油脂の生産量は166万5千トンで、生産指数は対前年比2.7%とわずかに上昇した。これは、健康の効能を訴求した商品の需要拡大が背景にあるとみられる。また、加工油脂の生産量も54万1千トンで、生産指数は対前年比1.6%とわずかに上昇した。加工油脂について内訳をみると、マーガリンは15万4千トンで、生産指数は対前年比▲3.6%とやや低下したが、ショートニングの生産量は24万4千トンで、生産指数は対前年比2.7%とわずかに上昇した。また、食用精製加工油脂は4万トンで、生産指数は対前年比5.2%とやや上昇した。

図2-16 食用油・同加工品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

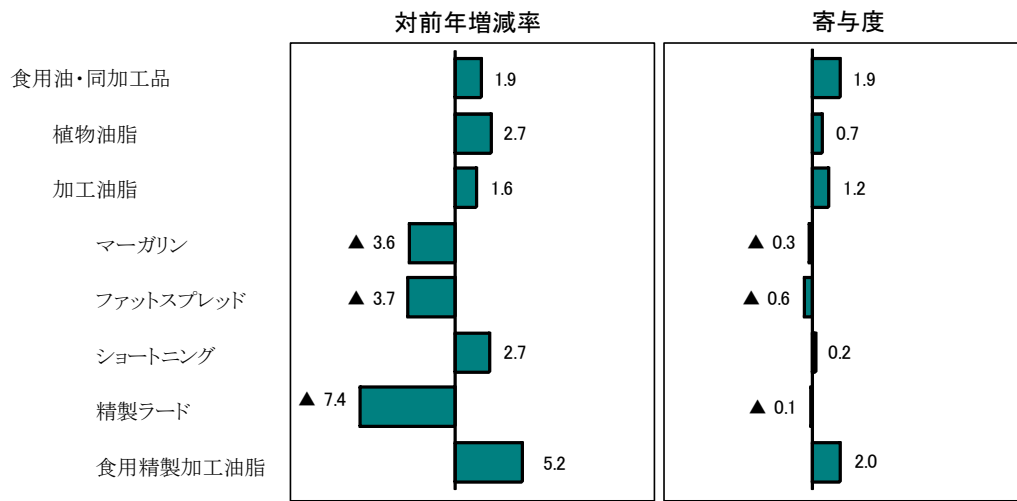


表 2-8 食用油・同加工品の品目別生産指数の推移

年 次 品 目	ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 26/25年
		22年	24年	25年	26年	22年	24年	25年	26年	
食用油・同加工品	360.2	100.0	104.3	111.1	113.3	▲ 4.0	7.0	6.6	1.9	1.9
植物油脂	111.3	100.0	88.9	97.8	100.5	3.5	0.1	10.0	2.7	0.7
加工油脂	248.9	100.0	111.1	117.1	119.0	▲ 7.0	9.7	5.4	1.6	1.2
マーガリン	31.2	100.0	100.0	100.6	97.0	▲ 0.1	▲ 0.3	0.7	▲ 3.6	▲ 0.3
ファットスプレッド	69.7	100.0	100.0	100.6	96.9	▲ 0.1	▲ 0.4	0.6	▲ 3.7	▲ 0.6
ショートニング	26.7	100.0	112.1	116.3	119.5	▲ 1.4	13.3	3.7	2.7	0.2
精製ラード	5.3	100.0	101.1	101.1	93.6	▲ 45.0	▲ 1.2	▲ 0.1	▲ 7.4	▲ 0.1
食用精製加工油脂	115.9	100.0	121.0	132.3	139.3	▲ 10.6	18.0	9.4	5.2	2.0

6 砂糖

平成 26 年の砂糖の生産指数（平成 22 年=100、一部推定を含む暫定値）は 96.6 で、対前年比▲ 1.2 %とわずかに低下した。

近年の砂糖の推移についてみると、平成 22 年以降低下傾向で推移しており、平成 25 年は横這いであったが、平成 26 年は再び低下した。

品目別にみると、三温及び液糖が対前年比でやや上昇した。またグラニュー等がわずかに上昇した。一方、中白が対前年比で大幅に低下し、中双及び角糖がかなり大きく低下し、氷糖はわずかに低下した。

図2-17 砂糖の生産指数の推移

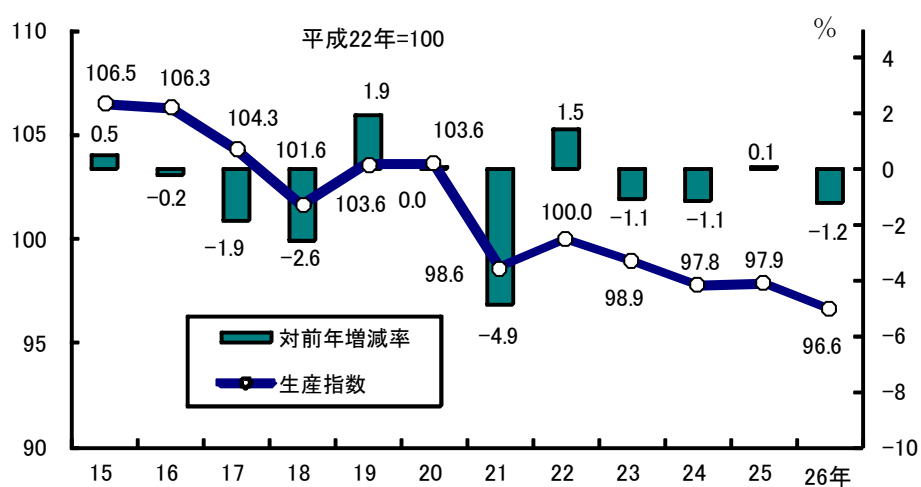


図 2-18 砂糖の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

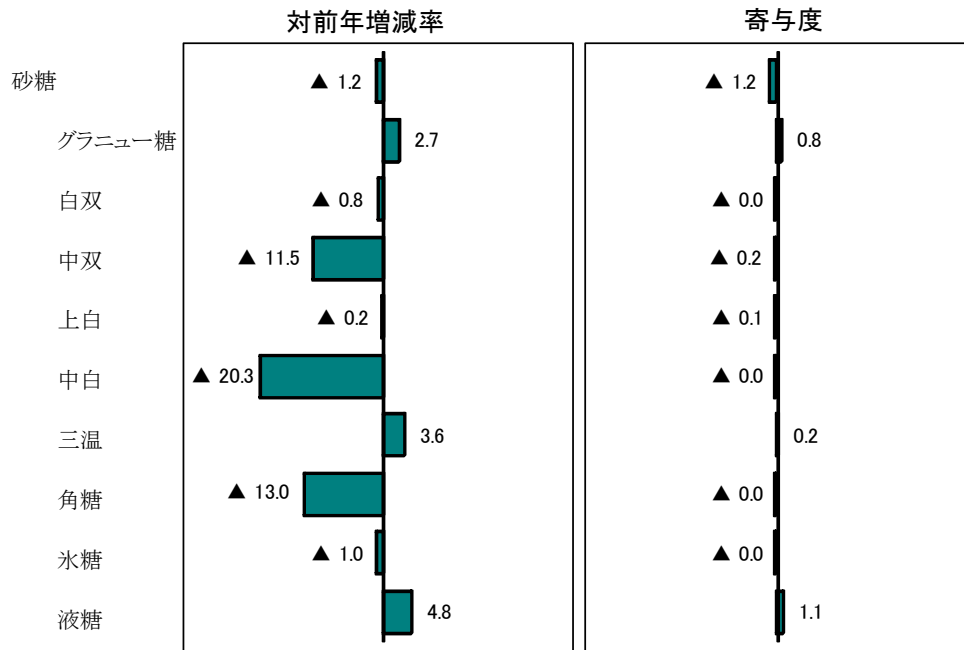


表2-9 砂糖の品目別生産指数の推移

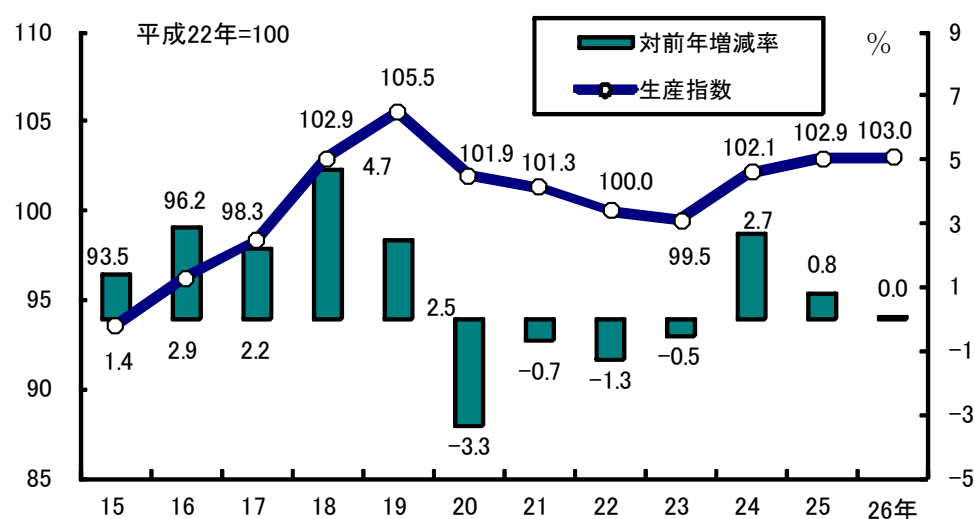
年次 品目	ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 26/25年
		22年	24年	25年	26年	22年	24年	25年	26年	
砂糖	19.5	100.0	97.8	97.9	96.6	1.5	▲ 1.1	0.1	▲ 1.2	▲ 1.2
グラニュー糖	5.9	100.0	96.8	97.2	99.9	8.1	▲ 3.1	0.4	2.7	0.8
白双	0.4	100.0	92.6	96.4	95.6	▲ 3.2	▲ 4.7	4.1	▲ 0.8	▲ 0.0
中双	0.4	100.0	87.5	84.4	74.7	▲ 2.6	▲ 7.5	▲ 3.5	▲ 11.5	▲ 0.2
上白	7.3	100.0	95.9	94.5	94.3	▲ 3.7	▲ 1.6	▲ 1.4	▲ 0.2	▲ 0.1
中白	0.0	100.0	81.1	88.3	70.3	▲ 1.7	▲ 0.5	8.8	▲ 20.3	▲ 0.0
三温	1.0	100.0	94.5	96.0	99.5	▲ 2.8	▲ 6.6	1.6	3.6	0.2
角糖	0.1	100.0	70.3	67.3	58.5	8.7	▲ 11.2	▲ 4.3	▲ 13.0	▲ 0.0
氷糖	0.1	100.0	101.6	100.6	99.5	▲ 12.2	2.9	▲ 1.0	▲ 1.0	▲ 0.0
液糖	4.2	100.0	104.7	105.9	111.0	3.1	5.0	1.1	4.8	1.1

7 調味料

平成 26 年の調味料の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 103.0 で、対前年比 0.0 % と前年並みとなった。

品目別にみると、みそが対前年比でかなりの程度上昇した。また、マヨネーズがわずかに上昇した。一方、ドレッシングがわずかに低下した。また、しょうゆは前年並みとなった。近年の調味料の推移についてみると、平成 23 年まで原料価格の高騰の影響から低下傾向で推移していたが、平成 24 年以降は上昇傾向で推移している。

図2-19 調味料の生産指数の推移



しょうゆは前年並み、みそはかなりの程度上昇

しょうゆの生産量は 79 万 kl で、生産指数は対前年比 0.0 % と前年並みとなった。一方、みそは 46 万 1 千トンで、生産指数は対前年比 8.3 % とかなりの程度上昇した。これは、フリーズドライタイプの即席みそ汁が簡便化志向から需要を牽引したためとみられる。

マヨネーズはわずかに上昇、ドレッシングはわずかに低下

マヨネーズの生産量は 21 万 3 千トンで、生産指数は対前年比 1.6 % とわずかに上昇した。一方、ドレッシングの生産量は 19 万 5 千トンで、生産指数は対前年比▲ 1.6 % とわずかに低下した。

図2-20 調味料の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

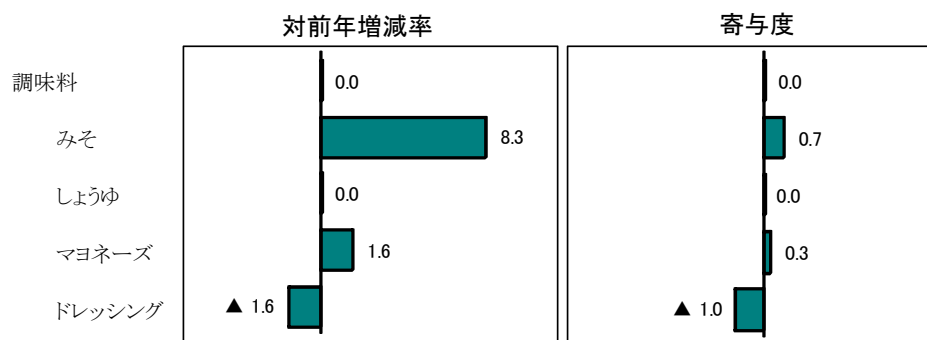


表 2-10 調味料の品目別生産指数の推移

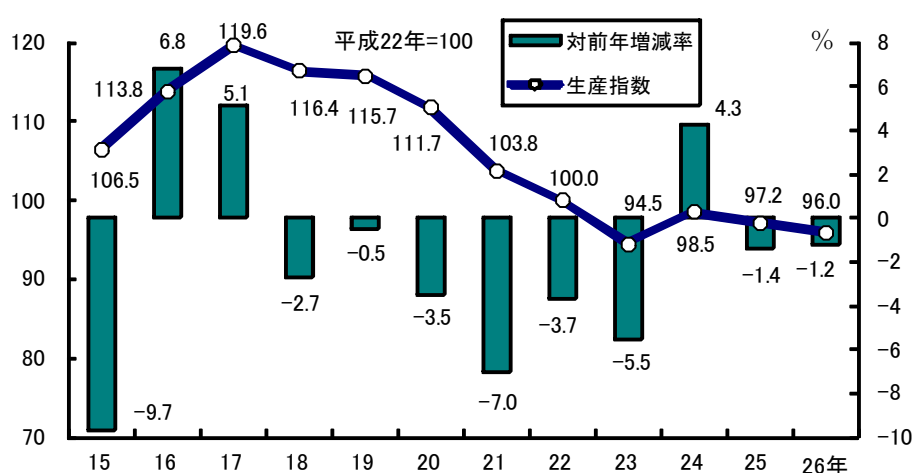
年次 品目	ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 26/25年
		22年	24年	25年	26年	22年	24年	25年	26年	
調味料	865.0	100.0	102.1	102.9	103.0	▲ 1.3	2.7	0.8	0.0	0.0
みそ	83.9	100.0	95.7	92.2	99.8	1.3	▲ 3.1	▲ 3.7	8.3	0.7
しょうゆ	152.8	100.0	96.9	95.9	95.9	▲ 1.8	▲ 1.7	▲ 1.1	0.0	0.0
マヨネーズ	142.9	100.0	102.2	102.8	104.4	▲ 2.3	0.8	0.6	1.6	0.3
ドレッシング	485.4	100.0	104.8	107.1	105.3	▲ 1.2	5.6	2.1	▲ 1.6	▲ 1.0

8 飲料

平成 26 年の飲料の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 96.0 で、対前年比▲ 1.2 %とわずかに低下した。特にトマト飲料の低下の影響が大きくなっている。

品目別にみるとコーヒー・茶系飲料は対前年比でわずかに上昇した。一方、トマト飲料は大幅に低下し、炭酸飲料及び果実飲料はやや低下した。近年の飲料の推移についてみると、平成 23 年まで低下傾向で推移していたのが、平成 24 年に上昇に転じたが、その後は再び低下傾向で推移している。

図2-21 飲料の生産指数の推移



炭酸飲料及び果実飲料はいずれもやや低下

炭酸飲料の生産量は 245 万 1 千 kl で、生産指数は対前年比▲ 3.6 %とやや低下した。また、果実飲料も生産量が 84 万 7 千 kl で、生産指数は対前年比▲ 3.0 %とやや低下した。

コーヒー・茶系飲料はわずかに上昇

コーヒー・茶系飲料の生産量は 859 万 9 千 kl で、生産指数は対前年比 2.3 %とわずかに上昇した。

トマト飲料は大幅に低下

トマト飲料の生産量は 7 万 2 千 kl で、生産指数は対前年比▲ 19.2 %と大幅に低下した。平成 24 年の大幅な需要拡大の反動が続いているものとみられる。

図2-22 飲料の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

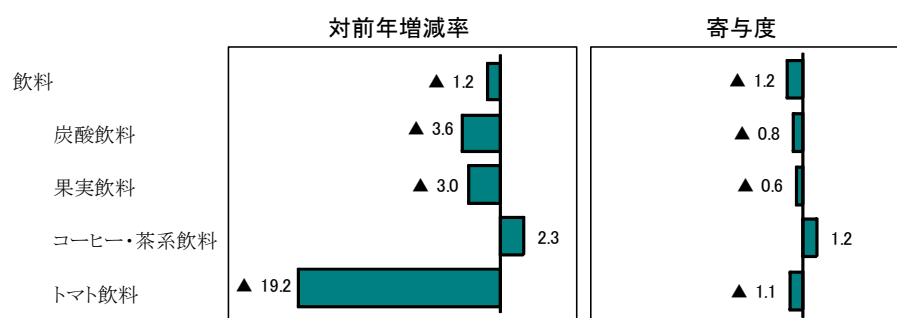


表 2-11 飲料の品目別生産指数の推移

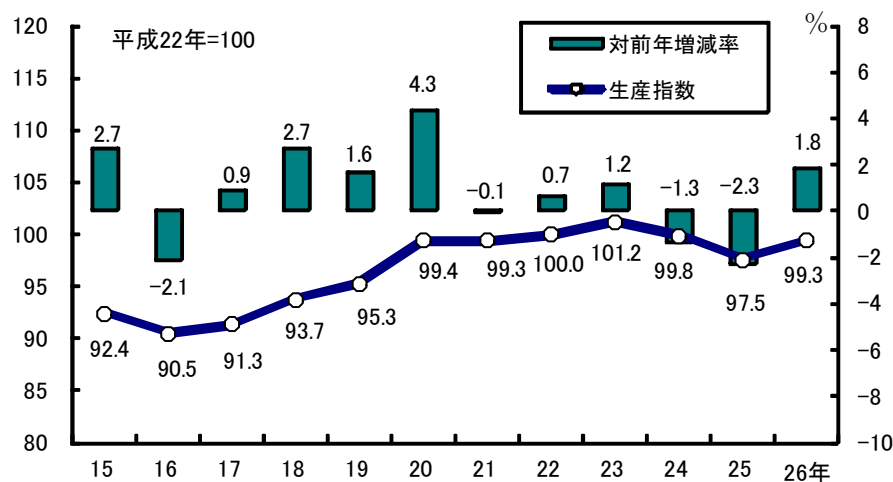
年次 品目	ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 26/25年
		22年	24年	25年	26年	22年	24年	25年	26年	
飲料	1,214.6	100.0	98.5	97.2	96.0	▲ 3.7	4.3	▲ 1.4	▲ 1.2	▲ 1.2
炭酸飲料	261.8	100.0	101.0	102.3	98.6	2.7	▲ 0.6	1.3	▲ 3.6	▲ 0.8
果実飲料	285.5	100.0	81.4	77.0	74.7	▲ 18.0	4.2	▲ 5.4	▲ 3.0	▲ 0.6
コーヒー・茶系飲料	616.5	100.0	101.3	101.7	104.0	1.4	2.2	0.4	2.3	1.2
トマト飲料	50.7	100.0	148.3	128.6	103.9	2.5	58.6	▲ 13.3	▲ 19.2	▲ 1.1

9 菓子

平成 26 年の菓子の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 99.3 で、対前年比 1.8 %とわずかに上昇した。

品目別にみると、ビスケットはやや上昇し、米菓は前年並みとなっている。

図2-23 菓子の生産指数の推移



ビスケットはやや上昇、米菓は前年並み

ビスケットの生産量は 24 万 4 千トンで、生産指数は対前年比 3.2 %とやや上昇した。また、米菓の生産量は 21 万 7 千トンで、生産指数は対前年比 0.1 %と前年並みとなった。

図2-24 菓子の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

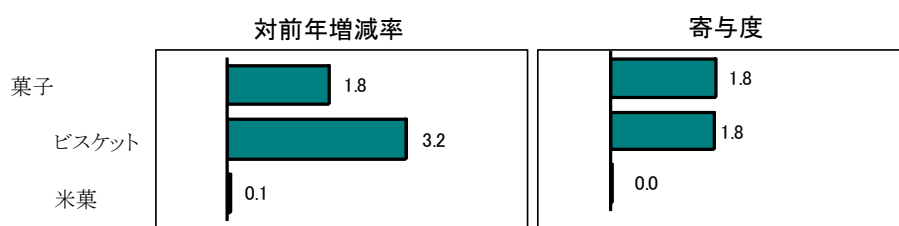


表 1-12 菓子の品目別生産指数の推移

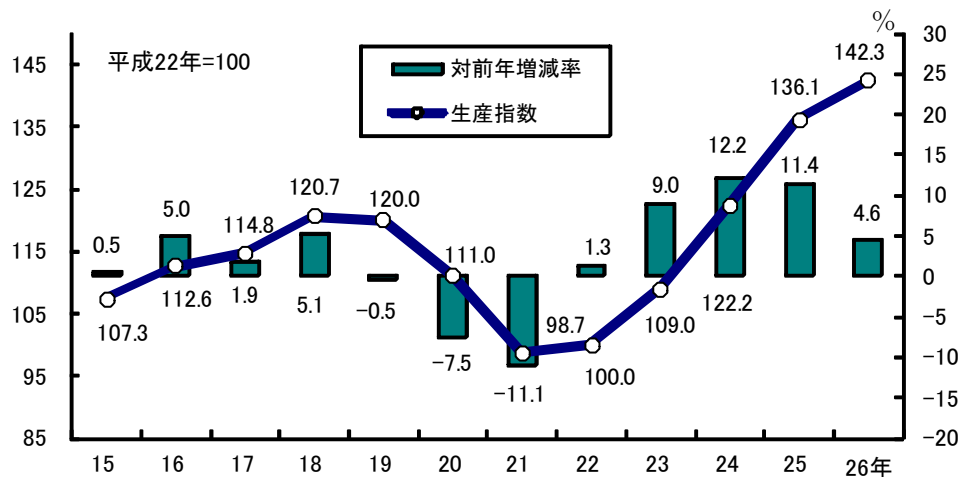
年次 品目	ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 26/25年
		22年	24年	25年	26年	22年	24年	25年	26年	
菓子	490.4	100.0	99.8	97.5	99.3	0.7	▲ 1.3	▲ 2.3	1.8	1.8
ビスケット	274.7	100.0	99.3	98.0	101.2	▲ 0.6	▲ 1.4	▲ 1.2	3.2	1.8
米菓	215.7	100.0	100.6	96.9	97.0	2.3	▲ 1.2	▲ 3.7	0.1	0.0

10 調理食品

平成26年の調理食品の生産指数（平成22年=100、暫定値）は142.3で、対前年比4.6%とやや上昇した。特に加工米飯の上昇が全体の上昇に寄与している。

近年の調理食品の推移についてみると、平成21年まで減少傾向で推移したが、その後は上昇に転じており、特に平成23年の東日本大震災以降は備蓄需要の高まりから、無菌包装米飯や冷凍米飯の市場拡大が続いている。

図2-25 調理食品の生産指数の推移



加工米飯はやや上昇

加工米飯の生産量は34万1千トンで、生産指数は対前年比5.1%とやや上昇した。特に無菌包装米飯や冷凍米飯の市場が拡大しており、生産ラインの拡充や品質志向型商品開発の取組がみられる。

カレーはかなりの程度低下、その他はやや上昇

調理缶・レトルトの生産量は38万3千トンで、生産指数は対前年比▲0.1%と前年並みとなった。内訳についてみると、カレーの生産量は15万2千トンで、生産指数は対前年比▲6.0%とかなりの程度の低下となり、一方、その他の生産量は23万1千トンで、生産指数は対前年比4.2%とやや上昇した。

図2-26 調理食品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

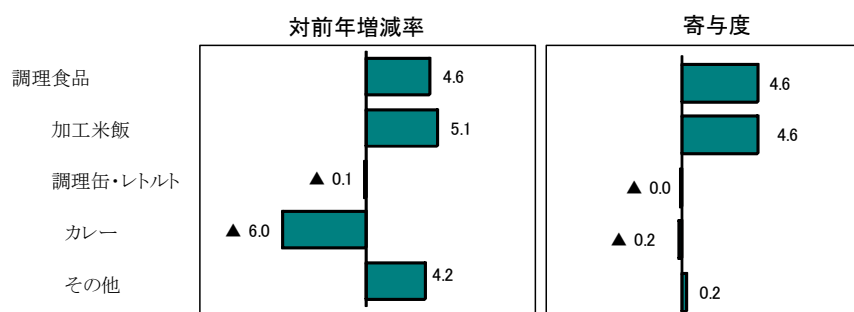


表 2-13 調理食品の品目別生産指数の推移

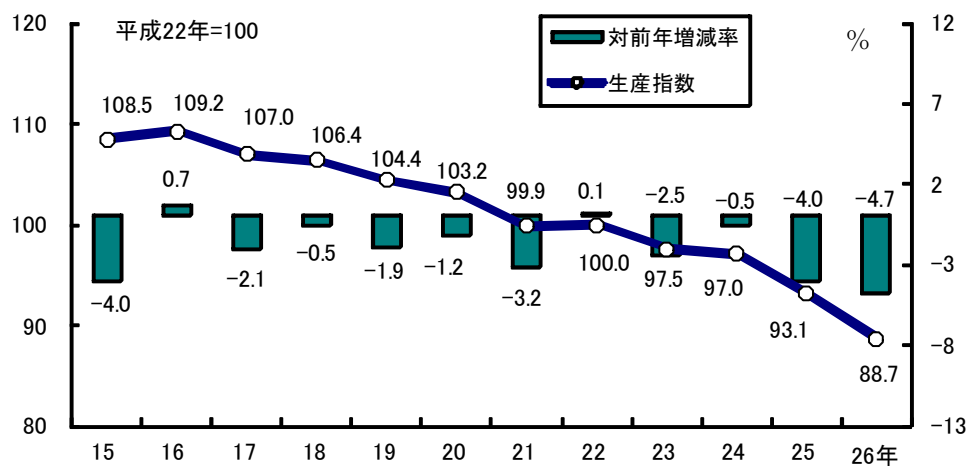
年 次 品 目	ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 26/25年
		22年	24年	25年	26年	22年	24年	25年	26年	
調理食品	984.0	100.0	122.2	136.1	142.3	1.3	12.2	11.4	4.6	4.6
加工米飯	848.4	100.0	126.2	142.2	149.4	1.0	9.0	12.7	5.1	4.6
調理缶・レトルト	135.7	100.0	97.3	98.1	98.0	3.1	47.0	0.8	▲ 0.1	▲ 0.0
カレー	47.6	100.0	114.0	118.0	110.9	23.5	70.7	3.5	▲ 6.0	▲ 0.2
その他	88.1	100.0	88.2	87.3	91.0	▲ 5.4	34.1	▲ 1.0	4.2	0.2

1.1 酒類

平成26年の酒類の生産指数（平成22年=100、一部推定値を含む）は88.7で、対前年比▲4.7%とやや低下した。特に清酒、ビール及び雑酒（発泡酒を含む）の低下が全体を押し下げている。

品目別にみると、スピリッツ類が対前年比で大幅に上昇した。また、ウイスキーがかなりの程度上昇し、果実酒類がやや上昇した。一方、清酒は対前年比でかなり大きく低下し、合成清酒がかなりの程度低下し、焼酎、ビール及びリキュール類がやや低下し、みりん及び雑酒（発泡酒を含む）はわずかに低下している。また、ブランデーは前年並みとなっている。

図2-27 酒類の生産指数の推移



ビールはやや低下、雑酒はわずかに低下

ビールの生産量は239万9千klで、生産指数は対前年比▲5.0%とやや低下した。ウイスキーなど他のカテゴリーへの消費の移行や消費者の低価格志向から全体ではノンアルコールのビール風味商品など低価格商品に押され、平成26年も前年を下回った。

雑酒（発泡酒を含む）の生産量も120万3千klで、生産指数は対前年比▲2.9%とわずかに低下した。低価格志向から発泡酒についてもウイスキーやワインに押され、消費が減少している。

焼酎はやや低下、ウイスキーはかなりの程度低下

焼酎の生産量は75万7千klで、生産指数は対前年比▲5.2%とやや低下した。一方、ウイスキーの生産量は8万8千klで、生産指数は対前年比9.3%とかなりの程度上昇した。

スピリッツ類は大幅に上昇、リキュール類はやや低下

スピリッツ類の生産量は37万8千klで、生産指数は対前年比17.7%と大幅に上昇した。一方、リキュール類の生産量は173万3千klで、生産指数は対前年比▲3.7%とやや低下

した。スピリッツ類はウイスキーの代替品としての需要が引き続き拡大しているとみられる。

図2-28 酒類の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

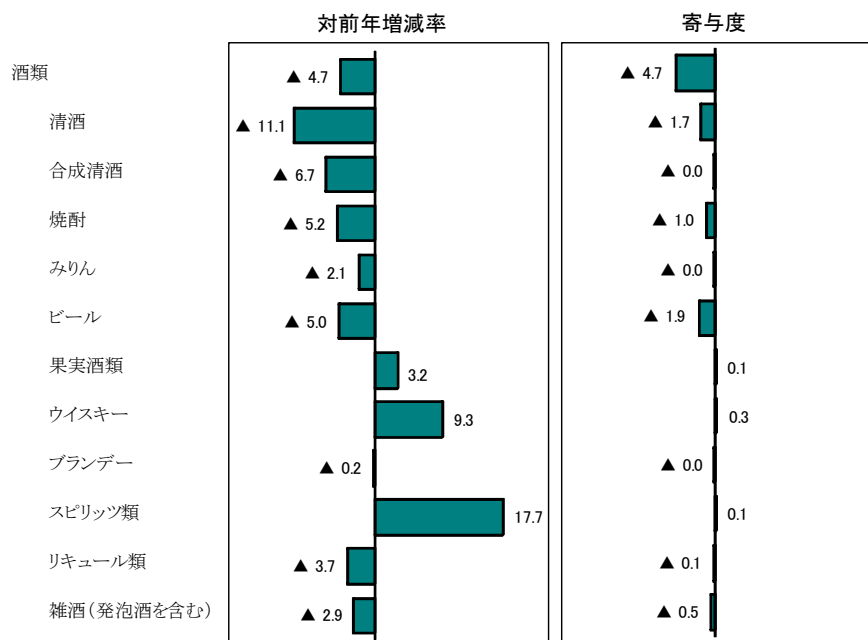


表 2-14 酒類の品目別生産指数の推移

品 目	年 次 (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 26/25年
		22年	24年	25年	26年	22年	24年	25年	26年	
酒類	2,029.9	100.0	97.0	93.1	88.7	0.1	▲ 0.5	▲ 4.0	▲ 4.7	▲ 4.7
清酒	290.7	100.0	99.9	97.9	87.0	▲ 1.7	▲ 1.2	▲ 2.0	▲ 11.1	▲ 1.7
合成清酒	6.0	100.0	88.0	82.9	77.4	2.4	▲ 5.9	▲ 5.8	▲ 6.7	▲ 0.0
焼酎	374.7	100.0	97.7	95.6	90.6	4.3	▲ 0.6	▲ 2.2	▲ 5.2	▲ 1.0
みりん	26.5	100.0	99.0	96.2	94.1	▲ 0.5	2.0	▲ 2.8	▲ 2.1	▲ 0.0
ビール	773.7	100.0	95.5	94.1	89.4	0.8	▲ 0.4	▲ 1.4	▲ 5.0	▲ 1.9
果実酒類	35.9	100.0	115.3	121.9	125.8	1.4	5.7	5.7	3.2	0.1
ウイスキー	61.1	100.0	100.6	107.9	118.0	10.4	2.6	7.2	9.3	0.3
ブランデー	0.1	100.0	92.0	91.2	91.1	22.4	▲ 6.4	▲ 0.9	▲ 0.2	▲ 0.0
スピリッツ類	6.4	100.0	108.2	122.2	143.8	8.5	4.4	13.0	17.7	0.1
リキュール類	39.1	100.0	107.1	113.0	108.8	1.3	3.9	5.5	▲ 3.7	▲ 0.1
雑酒(発泡酒を含む)	415.6	100.0	85.3	78.6	76.3	▲ 25.1	▲ 6.8	▲ 7.9	▲ 2.9	▲ 0.5